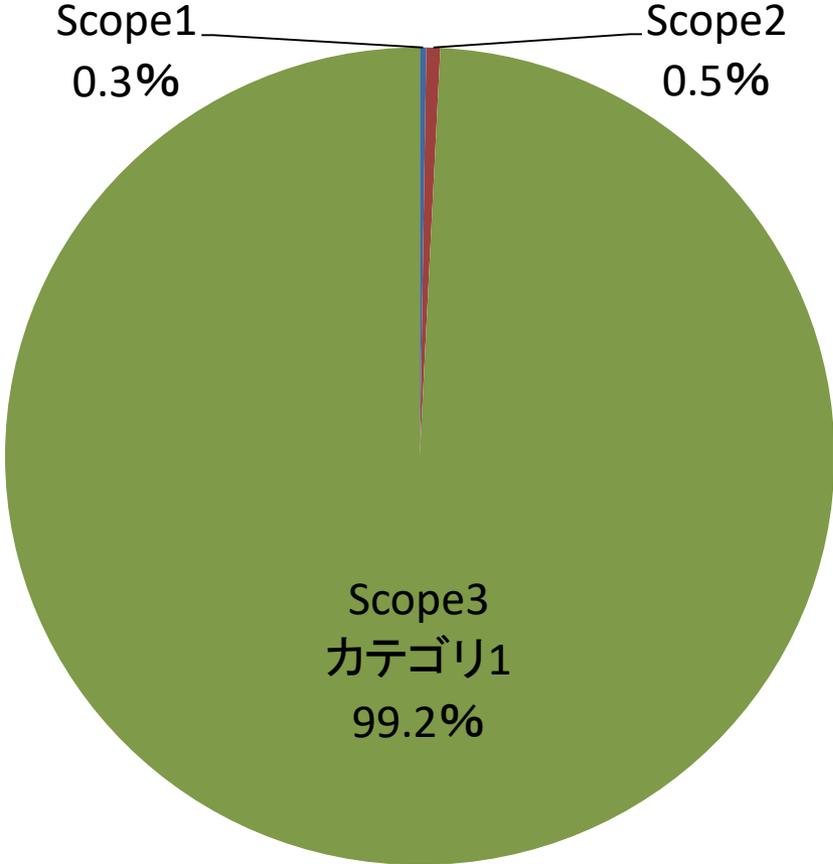


株式会社横浜環境デザイン

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none">● 業種：建設業● 事業概要：太陽光発電システムの設計、施工、販売等。● 事業規模：拠点数：4拠点、従業員数：76人
2.削減目標案	<p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み></p> <ul style="list-style-type: none">● 目標：2020年度中に2018年度比で60%削減● 取り組み：<ul style="list-style-type: none">- 環境マネジメントシステムの運用を推進し、全社をあげてCO2排出削減に努める。- ガソリンの使用量を2020年度以降の環境目標に設定し、使用量削減を図る。- 自社保有太陽光発電所を増やし、再生可能エネルギーのさらなる導入・活用を行っていく。- 再生可能エネルギー電気への切替を推進する。- 非化石証書やJクレジットも利用し、目標を達成する。

株式会社横浜環境デザイン

項目	内容									
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope 1・2・3の排出量の状況  <p>A pie chart illustrating the distribution of greenhouse gas (GHG) emissions across three scopes. The chart is divided into three segments: a very small red segment for Scope 1 (0.3%), a slightly larger red segment for Scope 2 (0.5%), and a large green segment for Scope 3 (99.2%). The Scope 3 segment is further labeled as 'Category 1'.</p> <table border="1"> <caption>GHG Emissions by Scope</caption> <thead> <tr> <th>Scope</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Scope 1</td> <td>0.3%</td> </tr> <tr> <td>Scope 2</td> <td>0.5%</td> </tr> <tr> <td>Scope 3 (Category 1)</td> <td>99.2%</td> </tr> </tbody> </table>	Scope	Percentage	Scope 1	0.3%	Scope 2	0.5%	Scope 3 (Category 1)	99.2%	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE1 : 50.2 [tCO2]
		Scope	Percentage							
		Scope 1	0.3%							
Scope 2	0.5%									
Scope 3 (Category 1)	99.2%									
<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE2 : 108.2 [tCO2] 										
<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE3 (カテゴリ1のみ) : 19,846.0 [tCO2] 目標の対象セクター : なし 										

株式会社横浜環境デザイン

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害による太陽光発電所の倒壊が多発し、発電ロスによる多大な損害が発生し、破損した部材の処理と発電所の再建に莫大な経費がかかる。 ● 法規制による施工基準や補償等の条件が引き上げられ、コストが増加する。 ● 災害対策として、地域や住宅で活用するための太陽光発電システム及び蓄電池のセット販売の需要が伸びる。 ● 環境問題への関心が高まり、小売電気事業による再生可能エネルギー由来の電力の購入が盛んになる。 ● CO2排出削減のために、太陽光発電システム導入による自家消費に取り組む個人・企業が増える。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none"> ● 太陽光発電事業者のリーディングカンパニーを目指す会社としての取組を外部にアピールすることで、有力な顧客や協力業者の確保を目指す。 ● 自社の取組により内部の関心を高め、顧客に対して有効な提案を行えるようにする。 ● 社内で運用している環境マネジメントシステムにSBTを絡めることにより、相乗効果で環境パフォーマンスの向上を図る。

株式会社横浜環境デザイン

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● 経営者及び環境マネジメントシステムを主管するISO管理責任者で目標案を検討した。● 目標案の設定値については、社内の経営現状、2018年度のCO2排出量、会社の方針、環境マネジメントシステムの運用状況等の要素を加味して決定した。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● Scope1におけるCO2排出量をゼロにするための取組と目標の策定。● 自社保有の太陽光発電所を増やすための取組の推進。● 小売電気事業に必要となる、再生可能エネルギー由来電力の調達。● Scope3におけるCO2排出量削減のための方法を検討する。